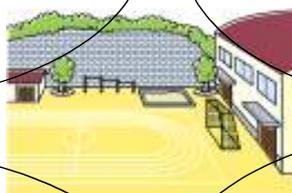


ひのみね支援学校では、 肢体不自由のあるお子さんについて様々な支援を行っています

○地域から、このようなニーズにお応えしています

- 〈就学・進学にあたって〉
- ・就学相談
 - ・本校の見学，体験入学
 - ・入学する小学校や中学校への環境面の提案

- 〈学習について〉
- ・学習の姿勢
 - ・自助具や代替手段の活用
(パソコン操作環境，楽器の操作，道具の使用等)
 - ・行事や集団活動への参加について
 - ・個別の指導計画の作成・活用



- 〈姿勢・運動面について〉
- ・体育の時間の参加の仕方，指導内容や方法
 - ・リラクゼーションの方法

- 〈その他〉
- ・関係機関の紹介
 - ・福祉サービス等に関する情報提供
 - ・公開研修会の案内

○肢体不自由のあるお子さんは・・・

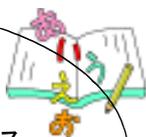
肢体不自由のあるお子さんは、移動や動作，姿勢の面で困難を抱えています。その他にも、例えば「見えにくさ」や「とらえにくさ」という視覚認知の困難等をあわせ持つ場合や、肢体不自由があることによる経験不足や消極的である等の二次的な問題をもつ場合もあります。様々な要因が関係し合っ、子どもの困難さとして現れてきます。

的確な実態把握により、様々な視点からとらえて、適切な支援を行っていくことが大切です。

例)

国語

- ・文字の形をとらえてバランス良く書くことが難しい
- ・漢字を読んだり書いたりすることが苦手



算数

- ・数が数えられない
- ・筆算の位取りがずれてしまう
- ・図形がうまく書けない
- ・定規がうまくつかえない



社会・理科

- ・地図，グラフや表の読みとりが苦手
- ・計測機器の読みとりが苦手

図工や音楽

- ・形を写すことが困難，特に3次元から2次元への再構成
- ・楽譜が読みとれない
- ・楽器の操作が苦手

- ・集中力が続かない
- ・時間に関する意識が乏しい

体育

- ・体操の手本がまねできない。
- ・体操やダンスがぎこちない。
- ・整列が難しい。

